

## インフルエンザの治療について

冬になりました。流行に大小はあってもインフルエンザが流行しなかった年はありません。今回はインフルエンザの治療について。

インフルエンザの治療は、症状を緩和する対症療法とウイルスを増やさない抗インフルエンザ薬があります。抗インフルエンザ薬は通常発熱後 2 日以内に使用します。剤型は 5 種類あります。カプセル（タミフル）錠剤（ゾフルーザ）粉（タミフル）吸入（リレンザ、イナビル）点滴（ラピアクタ）。タミフルは 5 歳未満の子の第一選択薬で本年度から 10 代の子にも投与できるようになりました。リレンザは吸入薬で 1 日 2 回 5 日間の吸入、投与量は成人も小児も変わりません。同じ吸入薬のイナビルは 10 歳未満で 2 吸入、10 歳以上で 4 吸入を 1 度に行います。ゾフルーザは体重により服用量が変わり、1 回の内服で治療が済みます。出たばかりの薬なので他の薬剤と比べ使用症例が少ないことが問題点でしょうか。ラピアクタは点滴で使う薬で、他の薬が無効、もしくは寝たきりなどの理由で内服・吸入が困難な場合に投与が検討されます。お子さんの病状、年齢や体格、日頃の服薬状況などを勘案して最も合いそうなお薬をかかりつけの先生とご相談ください。薬について述べてきましたが、インフルエンザの治療で一番大事なのは十分な休養と水分摂取です。抗インフルエンザ薬は発熱期間を 24 時間程度短縮する程度の効果です。投与は必須ではないということも覚えておいてください。

治療は日々進歩しておりますが、流行を最小限に食い止めるためには予防が大事です。流行がくる前に予防接種を完了しておく、シーズン中は手洗い励行、十分な休養をとり外出時にはマスクを着用しましょう。